

学校教育目標		総合評価
人間尊重の精神に徹し、自ら考える力と、創造的な知性、及び実践力を養い、調和のとれた人間の育成を目指す。 『自主・自律の精神に徹する』 『真摯な態度で自己目標の実現に努める』		・全職員が「チーム東」の一員として一致団結し、「地域から信頼され、地域に貢献できる人材の育成」に努めるとともに、安心・安全な学校づくりに積極的に取り組んだ。 ・ボランティア活動やホームページなどを活用した広報活動を通じて地域との連携を図り、開かれた学校づくりに取り組んだ。 ・多くの生徒会活動やクラブ活動を通して、生徒の主体性を高めるとともに、今後も地域社会から信頼される人材育成に努めていきたい。
中長期的目標 学校教育目標に則り、地域から信頼され、地域に貢献できる人材の育成を目指す。 1 地域に開かれた学校づくりを進め、地域の信頼を高める。 2 自らが学ぶ学校を誇りとし、自己目標の実現に向かい主体的に取り組む生徒を育成する。 3 全人教育を進め、クラブ活動など生徒の自主活動をさらに活性化することを目指す。		
今年の重点目標	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
1 学ぶ楽しさを実感し進路の希望を実現できる学校づくり 2 いじめや体罰のない、安全・安心な学校づくり 3 生徒一人ひとりが自己を見つめ、力を発揮できる学校づくり 4 生徒の人権を尊重し、保護者・地域に信頼される学校づくり	・充実した学校生活を送っている生徒が多くみられる。一方で、生徒一人ひとりの進路意識が低く、明確な進路を持っていない生徒もいる。具体的な取り組みをしていきたいが、進路が多様であるため、効果的な取り組みが難しい。また、生活全般が受け身の生徒が多くみられるため、指示に従って行動できる反面、指示がないと何も行動できない生徒も目立つ。	・進学や就職などの具体的な目標が明確になってくることが、自主的な行動につながる。進路に対する取り組みを充実させることが大切だと思われる。 ・いじめや体罰のない学校づくりにおいては、引き続き注視していくとともに、相手の気持ちを尊重しあえる関係性の構築に努める。

《教育活動領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
教育課程 ・ 学習指導	1 2 3	教養フロンティアコースの取り組み	・信本豊南短期大学との高大連携に際し、関係する分掌・教科で、連携の計画・実行ができたか。 ・ミックスホームルーム制実施3年目で、従来のコース別クラス制との比較検証はできたか。 ・学年と進路係が連携をとりながら、生徒一人ひとりの進路実現へ向けた系・講座の選択をさせる指導ができたか。 ・2・3年系別講座編成に対して、スムーズな編成と工夫ができたか。	・英語科、家庭科を中心に、順調に計画立案・実行することができた。 ・以前と比べ、学習態度や成績にミックスホームルームの成果が見られた。また、全教員を対象としたアンケート調査を行い、意見をまとめた。 ・教員配置等により、個人の要望に完全にマッチしたとは言えないが、現状では十分な対応ができたと言える。 ・学年の意見、要望を充分に考慮した講座編成ができた。	・将来構想委員会を中心に、更にあり方の検討が必要である。 ・年度末には、当該学年による具体的な検証を実施する必要がある。 ・教員定数・配置等の制約の中で引き続き最大限の努力をしていく。 ・今以上に教員同士が連携し、生徒の進路意識を更に高められると期待する。
		健康スポーツコースの取り組み	・松本大学との高大連携の計画・業務遂行をスムーズに行い、内容をより充実させることができたか。 ・2、3学年ミックスホームルームに於いて、コース独自の科目展開による成果はあったか。 ・コースの特色をいかした進路実現を行える少人数講座や授業内容の工夫ができたか。 ・1学年ミックスホームルームに於いて、健康スポーツコースとしての独自性を維持することができたか。	・体育科を中心に、順調に計画立案・実行することができた。 ・授業においてはコース別であるが、ホームルーム内や芸術科目などにおいて、健康スポーツコースと教養フロンティアコースの枠を超えた交友関係を築くことができていた。また、例年通りスポーツの授業などでコース独自の学習を展開することができた。 ・従来通り。 ・コースとしての活動が高大連携しかないのが現状であるので、今後工夫が必要である。	・将来構想委員会を中心に、更にあり方の検討が必要である。 ・コース別となる2、3年次に、さらにコースとしての特色を打ち出せるように検討が必要である。 ・コースの特色を生かす進路の方向性は、今後の将来構想委員会での検討を受けて考えていく必要がある。 ・あらためて多方面での検証が必要である。
	1 3 4	授業の改善と工夫	・「丁寧でわかりやすい授業」を目指し、生徒の学習意欲を喚起できるような授業内容の工夫を行うことができたか。 ・保護者や地域に対して授業公開を行ったり、教師間の授業公開・研修を行い、授業改善に向けた努力ができたか。 ・各学年・クラスや各講座などの情報交換会などを行い、生徒理解を深め、個々の授業展開を考える契機にすることができたか。	・各教師が生徒の実態に合わせながら授業を展開している。教材にも工夫を凝らし、独自のプリント等を用いて生徒の意欲向上を図っているが、更に内容の充実に努めなければならない。 ・年間計画に基づき、授業公開を行っている。その際、教師間で授業見学をしあうように呼びかけている。実施時期や方法は今後更に検討の必要がある。 ・毎週の学年会において、クラス、講座、生徒について情報交換がなされている。	・将来構想委員会で、授業内容の充実等検討後、全職員で協議を深め、意識を高めて行く。
	1 3 4	基礎学力の補充と進学希望者の進学意欲を向上させる取り組み	・補習等の授業外での学習機会を作ることができたか。 ・進路係の取り組みを踏まえ、本校の生徒の状況を理解し、基礎学力の補充について具体的に取り組むことができたか。	・木曜日の進学補習、長期休業中の補習、また各種検定に向けた補習も行った。 ・基礎学力については、入学してくる生徒の学力と比例して、少しずつではあるが向上してきていると感じる。しかし、入学してからの家庭学習などの習慣化にはまだ課題が多い。	・生徒が恒常的に学習する態度を養うために、更なる対策を検討する。 ・将来構想委員会で、授業内容の充実等検討後、全職員で協議を深め、意識を高めて行く。

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策	
進路指導	1 3 4	進路意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる活動が進路学習に繋がるよう、そのための手立てを講じたか。</li> <li>保護者懇談会、学年PTA、進路だより等を活用し、保護者との連携が図れたか。</li> <li>生徒一人一人の進路希望をタイムリーに把握することができたか。</li> <li>進路係と教育課程委員会が連携し、科目選択に合わせた進路意識の向上が図れたか。</li> <li>将来構想委員会と連携し、進路指導の重点分野を設定することができたか。</li> <li>高大連携委員会と連携し、保育・スポーツ・栄養・語学分野への重点指導が行えたか。</li> <li>進路指導室を生徒が有効活用できる場として整備できたか。</li> <li>学校説明会やオープンキャンパス等の情報を各生徒に行き届くように周知できたか。</li> <li>校外の機関や業者と連絡をとり、効果的なガイダンスや講話等の活動を用意できたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路活動の時間に留まらず、授業や部活動などの時間においても出来る範囲の中で、進路学習を意識した指導を行った。職員間の情報や意思の「共有」という点で工夫が必要であるが、今後も継続していきたい。生徒は指示通りに動くことはできても、「受け身」の状態を脱しきれない。いかに「主体性」を育めるかが課題となる。</li> <li>保護者懇談会、学年PTAは保護者との連携を図る貴重な機会だった。また、進路だよりは学年毎の発行という形に変更し、よりタイムリーに生徒・保護者へ話題を伝えることが出来るようになった。</li> <li>進路希望調査は定期的に行ったが、それを関係する職員が閲覧出来るシステムが十分ではない。</li> <li>科目選択に関しては時間的な余裕に欠けていたため、十分な意識向上が図れたとは言えない。</li> <li>本校がどの分野を重点的に指導していくかは、将来構想委員会で議論されなかった。</li> <li>高大連携は必ずしも進路指導と直結するような内容とはなっていないが、連携教科及び学科の特性を生かすことが先決であるため、現状が妥当であると考ええる。但し、連携を行うコース・科目を選択する際の指導は必要である。</li> <li>進路指導室はスペースが十分でなく、機能的とはいえない。現在、整備中である。</li> <li>学校説明会やオープンキャンパス等の情報は学年の進路担当を通じて生徒へ周知を図った。</li> <li>校外の機関や業者によるガイダンスや講話は必要に応じて実施することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度へ向けて進路指導計画を進路指導係より提示する。その際、「どのような活動を」「どのタイミングで」提示していくかだけではなく、本校職員が生徒達に「願う」あるべき姿を「共有」することが不可欠である。生徒が「受け身」から脱却し、自ら自身の進路を切り開こうとする「主体性」を育めることを念頭に置いて計画することが必要である。</li> <li>進路指導計画がマニュアル化し、進路活動が形骸化することがないように、各年度毎に成果・課題を分析し、アップデートを繰り返していくことが必要である。</li> <li>進路に関する生徒の情報を職員がネットワーク上で閲覧できるシステムを整える。</li> <li>1、2年次の文理選択及び科目選択に合わせた進路指導が担任・学年に任されているのが現状であり、進路指導係と教育課程委員会が連携を深める必要がある。</li> <li>基礎学力の定着を図る必要がある。入試対策以前に1年次の学習内容が十分に定着していない。補習という手段もあるが、まずは「授業」での基礎学力定着が不可欠となる。</li> <li>職業体験(ひろがれわたし)の事前・事後指導の方法を含めた、実施方法の再検討。</li> </ul>	
		1 3	キャリア教育を軸にした進路指導年間計画の見直し及び作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで行ってきた進路指導の成果や課題を十分に分析できたか。また、その分析が反映された進路指導計画になっているか。</li> <li>新たに作成された進路指導計画が、「進路指導の基本方針」及び「各学年の指導目標」に準拠しているか。</li> <li>「ひろがれわたし」が事前・事後指導を含めて、キャリア教育の一環として効果的な形で運営されたか。</li> <li>3学年の「総合的な学習の時間」が全職員の協力の下、生徒の進路実現に向けて、効果的な形で運営されたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じてこれまでの進路指導の分析は行ってきた。新たな進路指導計画については今年度内に提示する。</li> <li>「ひろがれわたし」はキャリア教育として生徒にとって有益であるが、事前・事後指導の在り方については検討の余地がある。</li> <li>全職員の協力を得て、3学年の「総合的な学習の時間」を効果的な形で運営することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導計画については毎年、成果と課題を分析し、アップデートを繰り返していく必要がある。</li> <li>「ひろがれわたし」については、係と学年の役割を明確にし、両者の連携を密にする。また、事後指導については振り返りをより発展的な形でできるように検討したい。</li> <li>3学年の「総合的な学習の時間」は今年度の形式を軸に計画する。</li> </ul>
		1 3	進路実現に向けた入試・就職試験への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年における進学希望者及び就職希望者への補習が、適切な時期に効果的な内容で行えたか。</li> <li>センター試験や一般試験に繋がる補習や模試を計画し、生徒が活用できる環境を整えられたか。</li> <li>小論文、面接対策が十分になされたか。</li> <li>必要に応じ、個別指導がなされる体制を整えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習は適切な時期に行えたと考える。そこで実力を向上させたり、進路意識を向上させる者もいた。但し、必ずしも結果に結びついてはならず、まずは基礎学力の定着が課題となる。</li> <li>筆記試験対策及び模試は十分行えたと考える。</li> <li>小論文、面接対策については係・学年のみならず全職員の協力を得て行うことができた。個別指導を必要とする生徒が多い中で、大変効果があがったと考える。しかし、指導により「形」は整えることができるが、「内容」の深まりが今一つの者の少なくなかった。</li> <li>3学年においては進路学習を講座毎に行い、個別指導も可能な体制を整えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習や模試については今年度同様に行いたい。年度当初に計画を生徒・職員に提示し、さらに見直しをクリアにした中で実施する。</li> <li>小論文、面接対策は現行の方法を軸に行う。生徒の更なる実力向上には「受け身」でなく、「主体性」を持たせることが必要であり、それを可能にするべく進路指導計画を作成していきたい。</li> </ul>
1	基本的学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の家庭学習習慣確立のための手立てを講じたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要性の喚起を生徒、職員に図ったが、具体的な手立てを提示するには至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まずは1年次に学習習慣を確立することが必要であり、そのための手立てを教科や教育課程などを中心に学校全体で検討していかなければならない。</li> </ul>		

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策	
生徒指導	2 4	対話の重視による生徒理解と家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機会あるごとに、生徒との対話がなされているか。また、生徒への直接・タイムリーな声がけは行われているか。</li> <li>・対話をし、トラブルを未然に防げたか。</li> <li>・家庭との綿密な連絡がとれ、ガイドラインの周知や反省の手順に従った指導について保護者の理解や協力は得られたか。</li> <li>・関係者間の綿密な連携により相談活動、カウンセリング活動が効果的になされているか。</li> <li>・生徒・保護者に向けた進路指導通信「まごころ」での呼びかけや通信の作成が十分に行われているか。</li> <li>・校則や身だしなみについてPTS協議会への投げかけを行うなど、生徒との対話の機会を持つことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員間の情報共有により、担任や部活動顧問を中心に家庭との連携・情報交換が常に意識されている。個別のケースにおいても面談等を丁寧に行うことにより、早期に対応できた。</li> <li>・『まごころ』は保護者あての内容も意識して発行されている。生徒の活動を紹介することで、生徒同士が高校生活を良い方に高め合うことを意識している。しかし、『まごころ』を家庭に持って帰っている生徒数は少ないと思われ、生徒の活躍が伝わり難い。担任からの呼びかけと公開授業、PTA総会などの際にも目に触れるようにしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の指導における「対話と説得」の基本的精神は次年度以降も堅持してゆきたい。</li> </ul>	
		1 2	学習習慣・学習環境の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習規律項目の指導が徹底できたか。</li> <li>・遅刻、欠課について生徒に対しての指導は十分できたか。</li> <li>・上記の指導において、科目担当者から担任へ授業の様子を伝えることができたか。生徒の授業の様子について情報伝達ができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の禁止物預かりは2週間を明記して、厳格に指導している。</li> <li>・遅刻や無断欠席、無断早退が少なからずおり、ゼロになるための指導を粘り強く継続していく必要がある。</li> <li>・学習環境の確立のために、教員の統一的指導を目指すことが大事である。「生徒がいけない」という考えは排除し、教員側の意識向上をそれぞれ考えていく必要がある。生徒が主体的に行動できる指導を継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを明確化し、統一指導がしやすい環境を作る必要がある。(生徒手帳、服装・身だしなみ、学習規律、アルバイト規定の見直し)</li> </ul>
		2	身だしなみ指導の徹底と生活マナーの向上など規範意識の確立 職員態勢の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ(頭髪・服装)検査の成果は上がったか。</li> <li>・通学時のマナー、交通ルールについて指導ができたか。</li> <li>・いじめのない学校作りができていないか。</li> <li>・全職員が足並みをそろえて生徒に対しての声かけや、集团的・組織的に指導にあたる態勢が作れたか。</li> <li>・進路内定後の生活の指導は効果が上がったか。</li> <li>・ゴミ・缶のポイ捨て、上下履きの区別等の生活規律についての指導はできたか。</li> <li>・盗難をなくす指導は効果を上げたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女子ではスカート丈、男子ではシャツ出しの生徒がいるなど、見た目のだらしさがある。冬季の登校の服装やカーディガン、スラックスの扱い等についても確認をしていく必要がある。</li> <li>・登下校時の歩行、自転車についての交通マナーについては、折に触れて注意喚起をしているが、「ながら歩行、運転」は後を絶たない。</li> <li>・いじめアンケートが実施され、また週一回の学年会でも情報交換がもたれる。早期に発見し、いじめに発展させないよう目を配りたい。</li> <li>・指導基準を明確に教員間で確認できる態勢を作らなければならないと考えている。</li> <li>・アルバイト届の提出については継続的に呼び掛けている。それでも無断でやっている生徒がいると思われる。許可制なので、把握に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行や自転車運転、交通マナーの改善が必要と感じる。(特に来年度は小学生の通学区が変更となる関係で田中線沿いは通学路が一緒になる)</li> <li>・システムの改善、これについては、分掌委員会とも協議が必要となるが、特別支援コーディネーターの配置を検討し、生徒指導、特別支援、相談支援、いじめ対策、養護教諭等が密接に連携し、指導にあたる体制にする必要がある。</li> </ul>
特別支援教育	1 3	特別支援教育の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育について学校全体で共通認識を得ることができたか。</li> <li>・対象生徒の状況把握に努め、職員間で情報を共有し、適切な対応がとれたか。</li> <li>・学校・家庭・医療機関・地域の支援センター等と連携しながら支援が進められたか。</li> <li>・対象生徒が自己の能力を発揮できる進路を選択できるよう、早い段階からの支援計画を立案し進められたか。</li> <li>・職員の研修機会を設け、支援の体制を整えることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会において支援方針の周知をはかるとともに、研修会を通して特別支援教育への理解と共通認識の向上に努めた。</li> <li>・教科担当委員会において、個々の支援方針を設定し、同一の視点で支援が行われるよう努めた。前年度中に本年度の個別支援方針を定めたことで、年度の変わり目における支援の途切れを減じることができた。係に集約される情報に、職員が必要ときに触れられる体制作りが未だ途上である。</li> <li>・新規に支援対象に入れる際の判断基準を設け、専門機関の助言を元に支援方針を立てることができた。年間を通じ、花田養護学校より、支援の内容について助言をいただいている。</li> <li>・個々の進路希望を立案しつつ、また進路希望が明確でない場合も社会性の向上を観点に、支援の内容を設定し取り組んだ。ゆっくりではあるが、確実に、生徒は成長を遂げている。</li> <li>・合理的配慮に関する職員研修会を実施し、理解を深めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象生徒の情報を常時教員同士で共有できるよう、ネットワーク上での閲覧と記入ができる体制を整える。</li> <li>・今後も定期的な「実態把握のためのチェックシート」による調査を実施し、生徒の成長を先生方自身が実感できる手立てとする。</li> <li>・進路指導および生活指導の場において、発達障がいのある生徒に対する指導上の観点や有効な支援を、事例をもとに研修する機会を設ける。</li> <li>・常時「グレーゾーンの生徒」を見守るなど、必要な「合理的配慮」が確実にされるための体制を充実する。</li> </ul>	

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
生徒会	3	生徒会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒組織の「自主性による活動」を促し、職員集団が支えることができたか。</li> <li>今年度生徒会スローガン「So good!」に基づき具体的な活動を展開できたか。</li> <li>文化祭に於いて生徒主体の計画・実行ができたか。また職員が適切な助言や指導をすることができたか。</li> <li>クラブ活動の活性化を目指し、人間力を育てるクラブ活動が行えたか。</li> <li>生徒一人ひとりが気持ち良く挨拶を行う環境作りができたか。</li> <li>積極的に校歌を歌う雰囲気作り、働きかけができたか。</li> <li>生徒・保護者・教職員による全校PTSの企画・運営を通じ、生徒の成長を促すことができたか。</li> <li>社会貢献に繋がる活動としてエコマネージメントへの取り組みを進めることができたか。</li> <li>A. O. H. S. (オール・岡谷・ハイ・スクール)の一員として、岡谷3校の生徒会と連携した地域貢献ができたか。</li> <li>年度後半で新体制の役員に代替わりの際、前年度の体制をスムーズに引き継ぐことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会・クラブ共に、諸活動を通して自己を見つめ、各種行事・大会や発表会等の目標に向け活動の充実を図ることができた。</li> <li>東高祭に向け、生徒が主体となって全校参加の取り組みを大切にす姿勢を持たせることができた。</li> <li>学校祭では、念願であった「一般公開2日」「三四六氏の講演会」を実現させることができた。</li> <li>学校祭の「バザー」では地域の皆様のご協力を頂き、約2千人を動員、収益金を社会福祉協議会に募金することができた。</li> <li>生徒会の諸活動を通して、自分の意見を述べ、同時に他者の意見を聞きながら会を進めていく知力を育むことができた。</li> <li>全校PTSに向け、分科会運営準備やイメージ討論などを積極的に行うことができた。</li> <li>募金付き自動販売機による諏訪湖アダプトプログラムおよび日本聴導犬協会への募金活動を継続した。(今年度末で終了)</li> <li>エコキャップ回収活動を継続しワクチン支援を行った。支援の意義を広く呼びかけ、社会貢献への意欲を育てる活動ができた。</li> <li>A.O.H.S.の活動として、岡谷3校の学校祭でそれぞれの学校の展示が行われた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間では扱った生徒会行事が40を越えている。毎週何らかの行事が行われており、腰を据えて計画を練り、内容を吟味・確認した上で実行に移すことが困難な状況にある。行事が終了してからも顧みる余裕がない状況であり、行事の厳選の必要性を感じる。</li> <li>クラブ活動の一層の活性化については、引き続き考えていく必要がある。4月当初にはクラブ加入率が上がったが、後に退部する生徒が見られる。学校という「組織の中の自分」を忘れ、「私生活優先」の生徒が増えているように思える。学校中心の高校生活を送れるよう工夫をしたい。</li> <li>PTS協議会および全校PTSの意義を全校生徒一人ひとりに感じさせ、自らの意見から学校づくりに貢献する意欲を育てたい。</li> <li>エコマネージメントの取り組みから、社会貢献につながる活動を発展させていけるよう努力したい。</li> <li>募金付き自動販売機は今年度末で終了となるので、当面、聴導犬協会への募金は書き損じハガキで、諏訪湖アダプトプログラムは湖周清掃の増員で対応するが、これに代わる募金活動を模索したい。</li> <li>文化祭その他各種行事についても、多くのご協力ご助言を仰ぎながら、全校生徒が充実感を得られる活動となるよう支援したい。また、その活動を通じて生徒の自主性、計画性、協調性を高める指導を心がけたい。</li> </ul>
		3 4 ボランティア活動の紹介と奨励	<ul style="list-style-type: none"> <li>花田養護学校との交流を充実させることができたか。</li> <li>地域交流の場である「ラムラム広場」など、ボランティア活動を充実させることができたか。</li> <li>文化祭に於いて、地域交流の充実が図れたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラムラム広場 および 花田養護学校との交流への参加状況は良好で、良い経験を積むことができた。</li> <li>これらの活動を通じて、新しい自分の発見につなげ、自ら考えて行動する力の定着に繋げていくことが望ましいと考える。</li> <li>文化祭では、地域の多くの皆様にご協力をいただき、またご来場いただくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動に取り組む意義や姿勢について、広く呼びかけ多くの生徒が参加できるように活動の発展に取り組むたい。</li> <li>ラムラム広場に関しては、「毎月の設定で、必ず土曜日(休日)」であり担当職員の負担も大きい。できる限り多くの職員がこれに関わり、地域の皆様・子ども達との交流ができると更に良い。</li> </ul>

《学校運営領域》

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
学校運営	1 3	わかる授業実践のための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員一人ひとりが指導力向上に努めるとともに指導方法について各教科・各学年等で意見交換できる機会を作ることができたか。また、学習指導力向上の講演会等を企画するなど指導力向上に努めることができたか。</li> <li>学校評価活動を通じて、教科内で得られた授業の問題点等について教員相互に意見交換できる機会をつくるとともに、学校全体のものにすることができたか。</li> <li>必要に応じて研修の機会を設けることができたかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教職員一人ひとりが指導力向上に努めていると思われる。また、各教科、学年会など様々な場面で生徒の情報交換を行うことができていて、今後も続けていく必要がある。</li> <li>公開授業(12/17-24)を利用した職員相互研修を実施したが、定期的に多忙化の中であり、どのように取り組んでいったらよいか検討する必要があった。今後も研究授業やそれ以外の授業においても相互に研修の機会が設けられるよう検討していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業見学・研修の充実を図る。多忙化の中でも、わかる授業実践のために教科を横断して取り組む研修の機会も増やしていくことも検討していきたい。</li> <li>アクティブラーニングに対する研修を設けることができなかった。学校全体として、どう取り組んでいったらよいかを検討する必要がある。</li> </ul>
		4 体験入学・生徒募集の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験入学の内容の充実、広報の充実を図ることができたか。</li> <li>公開授業等を内部のものだけにせず、ホームページ等の広報活動を通じて地域・中学生・保護者に発信することができたか。</li> <li>本校の入試について、中学生やその保護者が十分な理解を得ることができたかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験入学については、時期・やり方など概ね好評評価を頂いている。</li> <li>入試の時期を目前に控え、12月頃から学校見学を希望する中学生が多く、今後も個別に対応をしていきたい。体験入学・中学校訪問と中学校の先生方にも多くのご協力をいただいているが、今後も、継続して取り組んでいきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年は近隣の普通科の高校と体験入学が重ならず、例年より多くの中学生に来てもらうことができた。体験入学の内容等を考えると現行行っている時期が妥当だと考える。また、生徒募集に関しては、学校HPを通じて情報を発信するとともに、中学校側に学校案内を作成して配布している。今後は本校の特色であるコース制や高大連携を生かしていくとともに、クラブ活動や生徒会活動を充実させていき、地域に貢献できる魅力ある学校づくりを続けていくことが大切ではないかと思われる。</li> </ul>

対象	対応重点項目	評価項目	評価の観点	成果と課題	次年度にむけての改善策・向上策
学校運営	4	情報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内の情報システムについて、教職員がスムーズに活用できるように工夫することができたか。</li> <li>・職員の情報リテラシーの向上に努めることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新県立ネットワークシステムが全県の学校で整備されたことにより、様々な対応が求められている。情報処理担当の負担は増える一方である。</li> <li>・情報共有ツールなど使い勝手がよいと思われる。しかし、設定にかかる負担や不慮の事故への対応の難しさなど担当者の負担軽減を考える必要がある。</li> <li>・パソコンの更新により、先生方に移行の負担をかけた。</li> <li>・情報資産の管理運用にあたって、整備中である。次年度以降対応できるようにしていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者の負担軽減を考えていきたい。教務2名で対応しているが、さらに係の中で人員配置を増やす必要がある。今後も「情報推進担当者」を置くことになるが、校内・校外との対応の中で教務係に情報に精通する人材の確保が必要である。</li> </ul>
	2 4	敷地・校舎の安全管理体制の確立と徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境の整備の一環として、行事や集会時の校舎の安全管理に心がけ、見回り、放送などの注意喚起を確実に行うとともに、生徒、職員の安全管理の意識向上を行うことができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に管理運営されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、日々の安全意識の向上に努めるとともに、防災対策や不審者への対応など危機管理の面からも生徒・職員の安全管理意識を向上できるよう心がけていきたい。</li> </ul>